

平成 17 年度当初予算 重点プログラム別概要

絆 1 : 観光みえの魅力増進プログラム

(主担当部局 : 農水商工部)

新 (1) 「旅ごころ誘う三重奏」誘客戦略推進事業

(2) 観光客誘客推進事業

(3) 観光商品づくり推進事業

(4) 外客誘致推進事業

新 (5) 魅力ある観光地づくり支援事業

新 (6) 三重の食パワーアップ 100 事業

新 (7) 熊野古道特産品共同開発事業

新 (8) 産業観光資源創造事業

新 (9) 三重の景観づくり推進事業

(10) 伊勢志摩快適空間創造事業

(11) 松阪・東紀州地域交流空間創造事業

(12) まちづくりプロジェクト事業

新 (13) 三重の観光人材育成事業

< プログラムの事業費 >

(単位 : 千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	486,537	490,000	599,000	1,576,000 程度
見直し後	490,182	659,342	805,535	1,955,059

注 : 見直し後の 16 年度は現計予算額、17 年度は予算要求額、18 年度は同見込額

< 事業目標の見込み >

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 新 観光商品を企画する旅行会社数	目標値		8 社	8 社
	実績値			
(2) 観光ルートの提供件数 (累計)	目標値	10 件	20 件	20 件
	実績値	11 件		
(3) 観光商品の提供件数 (累計)	目標値	15 件	30 件	50 件
	実績値	15 件		
(4) 外客誘致プロモーション件数	目標値	5 件	5 件	5 件
	実績値	5 件		
(5) 新 魅力ある観光地づくり実施件数	目標値		8 地区	8 地区
	実績値			
(6) 新 研修後改善された土産物数 (個)	目標値		0 個	100 個
	実績値			
(7) 新 産学官が連携し生まれた技術を活かした製品の提供件数	目標値		4 件	7 件
	実績値			

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(8)新コパ [®] に申請してくる意欲とアイデアのある企業グループ数	目標値		10	15
	実績値			
(9)新景観交流会の実施市町村数	目標値		2	3
	実績値			
(10)整備計画に基づく取組内容着手率	目標値	55%	70%	70%
	実績値	66%		
(11)整備着手地区数	目標値		2 地区	4 地区
	実績値			
(12)整備地区数	目標値	2 地区	3 地区	3 地区
	実績値	2 地区		
(13)新観光地マネージャーの育成人数	目標値		20 人	20 人
	実績値			

< 進捗状況（現状と課題） >

魅力ある観光商品づくりの推進のため、観光プロデューサーを配置し、三重県観光販売システムズを構築しました。また、観光客誘客のため、熊野古道シャトルバスの運行、旬の行事に合わせた伊賀地域への誘客キャンペーンや、中部国際空港の開港及び愛・地球博を活用した誘客キャンペーンを実施しています。加えて外客誘致のため、外国語版HPやガイドマップを作成し、海外でのプロモーションを実施しました。

快適空間創造事業では、先駆的取組が評価され、伊勢二見地域観光交流空間づくり事業と「紀伊山地の霊場と参詣道」広域連携観光交流空間づくり事業がモデル事業として選定されました。

また、平成 15 年 10 月に設置した「三重県の観光振興のあり方検討懇話会」から意見を聴取し、本年 11 月に「三重県観光振興プラン」を策定するとともに、各地域の観光振興の方向性を「地域別観光振興のあり方」として提案したところです。

今年度、観光客の誘客を推進するため、観光資源の発掘から観光商品化、広報宣伝、販売まで一括して行う「三重県独自の集客システム」を構築したところであり、今後は、各関係機関が連携し、それぞれの役割を担うことにより、一体となった誘客システムを確立していく必要があります。

また、ビジット・ジャパン・キャンペーンに呼応して外国人観光客の誘客を推進するには、中部圏や関西圏の協議会と連携し、海外でのプロモーションや商品造成の働きかけなどにより本県をPRすることが必要です。

快適で魅力的な観光交流空間を創造するには、自然や歴史・文化など地域の個性を活かした良好な景観形成が求められているところであり、本年 6 月に制定された「景観法」に基づく取組を県内各地で展開していく必要があります。

観光客の満足度を高め、口コミ情報によるリピーター客の増加を図るためには、おもてなしの心の醸成が必要です。また、自立的な観光地づくりを総合的にコーディネート

する「観光地マネージャー」などの人材を育成することが緊急の課題となっています。

<平成 17 年度の取組方向>

観光みえの魅力増進にあたっては、「三重県観光振興プラン」の 3 つの観光構造の変革と 4 つの基本姿勢の趣旨に沿って、6 つの戦略により推進していきます。

世界遺産に登録された熊野古道・伊勢路や中部国際空港の開港と愛・地球博の開催を契機とした観光客の誘客については、従来に関西圏・中京圏に加え、新たに首都圏等からも誘客できる観光商品づくりを行い、商品の広報宣伝と三重県観光販売システムズにより販売につなげていきます。また、国のビジット・ジャパン・キャンペーンと連携し、個人旅行シェアの高い台湾・香港や本年 9 月団体旅行観光ビザ発給地域が拡大された中国を対象に誘客を図るとともに、三重県外国人観光客誘致促進協議会により研修会の開催など受入に備えた事業を実施します。

魅力ある観光地づくりについては、地域住民の創意工夫を生かした主体的な取組の中から、訪れるたくなるまちづくりや住民が誇れるまちづくりを地域住民や市町村と協働により推進します。

さらに、サスティナブル(持続可能)な観光地とするため、総合的にコーディネートするマネージャー等の育成を行っていきます。

<主な予算要求事業>

新「旅ごころ誘う三重奏」誘客戦略推進事業【17 年度事業費 107,858 千円】

本県への観光動機となるイメージに沿ったテーマを設定し、首都圏等全国から誘客できる魅力ある商品づくりを行います。そして、旬の時期に本県でしか体験できない誘客事業を展開します。

新魅力ある観光地づくり支援事業【17 年度事業費 35,181 千円】

「住んでよし、訪れてよし」の魅力ある快適な観光交流空間づくりを支援します。

新三重の食パワーアップ 100 事業【17 年度事業費 26,000 千円】

三重県らしい食(農林水産物及びその加工品)について、「本物」の魅力を向上させる研修を実施し、物語性のある高付加価値型商品が提供されることにより、観光客の満足度向上を図ります。

新熊野古道特産品共同開発事業【17 年度事業費 8,567 千円】

東紀州地域の生産者、民間企業、市町村、県、高等教育機関等が連携・交流しながら、農業等第一次産業を活かした特産品開発を行います。

新産業観光資源創造事業【17年度事業費 4,000千円】

既存の製造業等の現場を楽しんでもらういわゆる産業観光の資源を発掘し、ブラッシュアップするため、サポート研究会、産業観光セミナー、アイデアコンペ事業を行うことにより新たな観光資源を創造します。

新みえの景観づくり推進事業【17年度事業費 9,856千円】

平成16年6月の景観法の制定をうけ、同法の景観計画に盛り込む基本的事項の考え方やあり方等を示した「景観法運用ガイドライン」を策定します。また、県民等の良好な景観形成への意識高揚を図るとともに、景観アドバイザーの登録や市町村と地域住民が景観について主体的に検討する景観交流会の開催支援など、景観行政団体となる市町村を支援します。

新三重の観光人材育成事業【17年度事業費 6,961千円】

「おもてなしの心の醸成」を実現するため、ホスピタリティを発揮できる人材や観光地づくりを総合的にマネジメントできる人材等の育成を行います。